
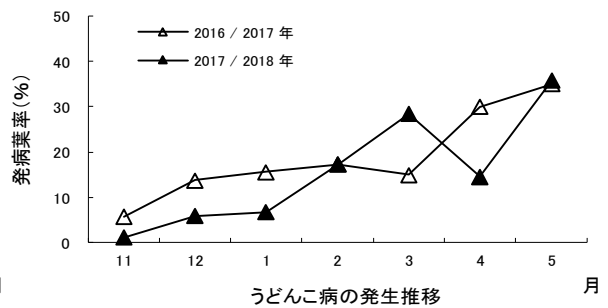
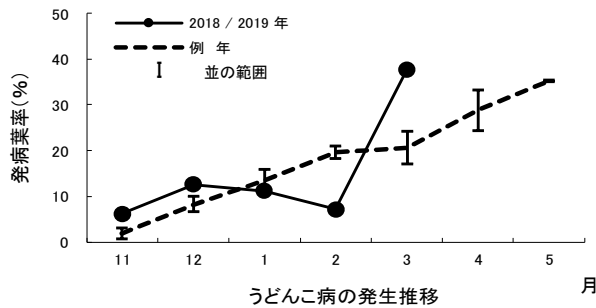


作物	ゴーヤー（施設）	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
3月の発生量（現況）		多	
4月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		発病葉率の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。	


発生量の根拠（調査結果）



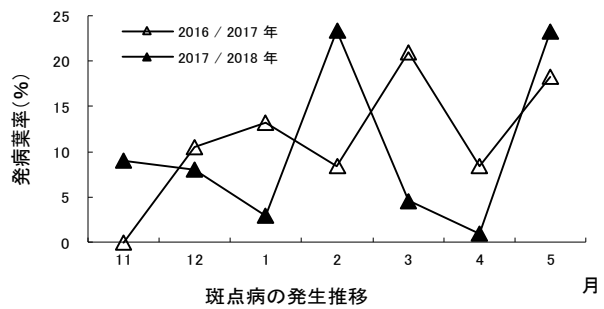
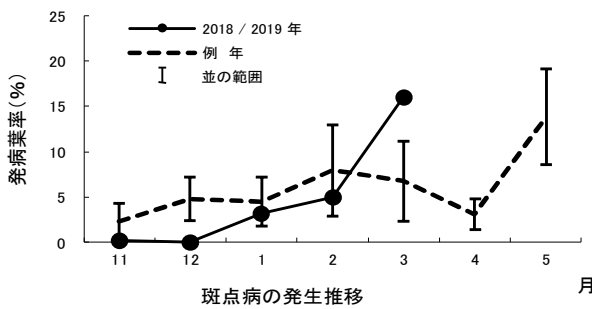
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 発病葉率（%）：37.8（前年28.4、例年20.6、判定「多」）

防除のポイント

- ・ 老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点を置く。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ゴーヤー（施設）	地域	八重山群島
病害虫名	② 斑点病		
3月の発生量（現況）		やや多	
4月の増減傾向		↓	
増減傾向の根拠		発病葉率の例年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。	


発生量の根拠（調査結果）



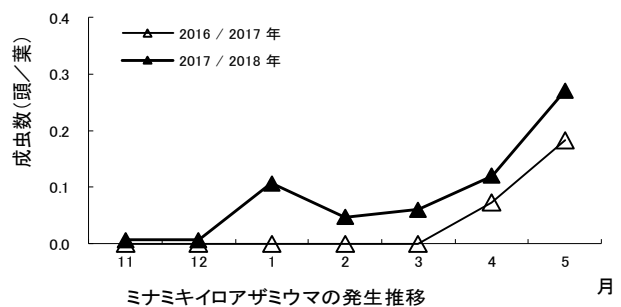
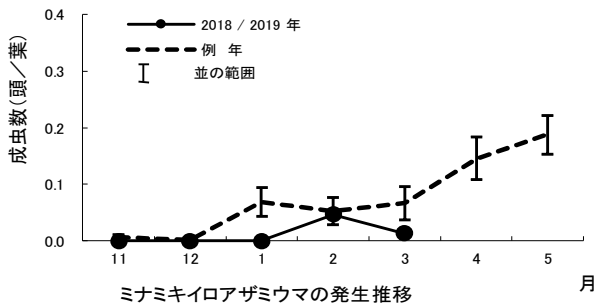
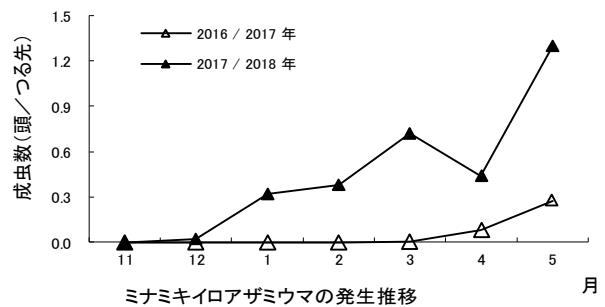
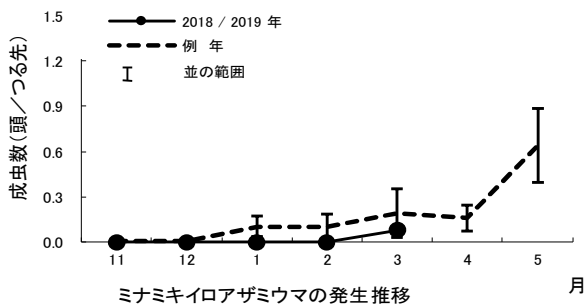
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 発病葉率（%）：16.0（前年4.6、例年6.8、判定「やや多」）

防除のポイント

- ・ 葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・ 老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・ 多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

作物	ゴーヤー（施設）	地域	八重山群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ		
3月の発生量（現況）		並	
4月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		今後1か月の気温が高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。	


発生量の根拠（調査結果）



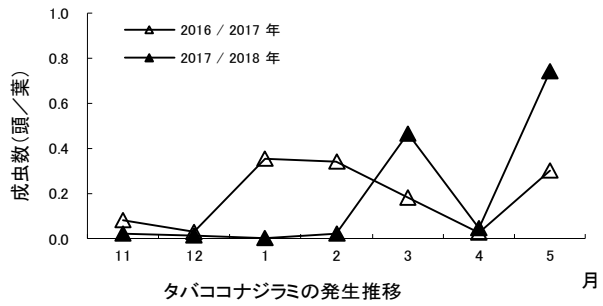
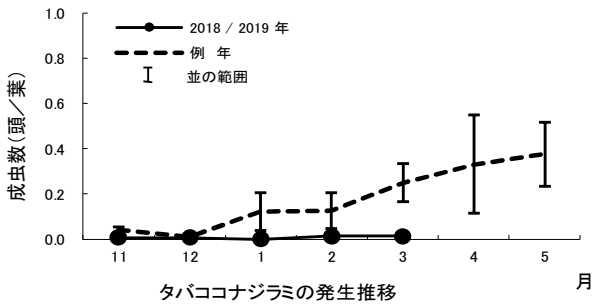
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ ミナミキイロアザミウマ成虫数（頭/つる先）：0.08（前年0.72、例年0.19、判定「並」）
- ・ ミナミキイロアザミウマ成虫数（頭/葉）：0.01（前年0.06、例年0.07、判定「やや少」）

防除のポイント

- ・ 本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ゴーヤー（施設）	地域	八重山群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		
3月の発生量（現況）		少	
4月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		成虫数の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。	


発生量の根拠（調査結果）



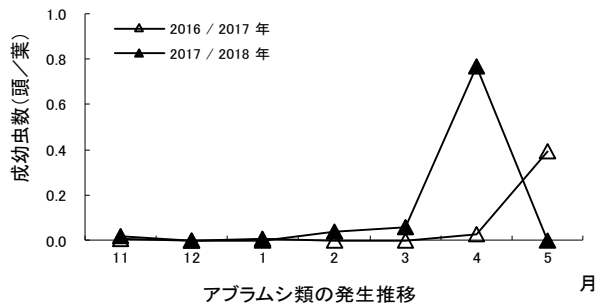
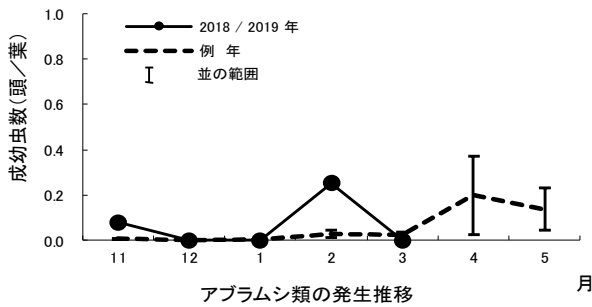
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 成虫数（頭/葉）：0.1未満（前年0.5、平年0.2、判定「少」）

防除のポイント

- ・ 多発すると排泄物によるすす病が発生し、光合成を阻害する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ゴーヤー（施設）	地域	八重山群島
病害虫名	⑤ アブラムシ類		
3月の発生量（現況）		(発生なし)やや少	
4月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		成虫・幼虫数の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。	


発生量の根拠（調査結果）



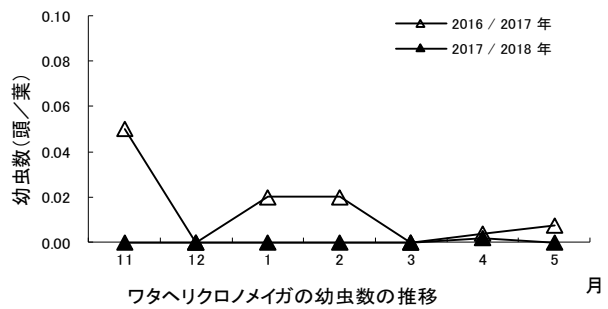
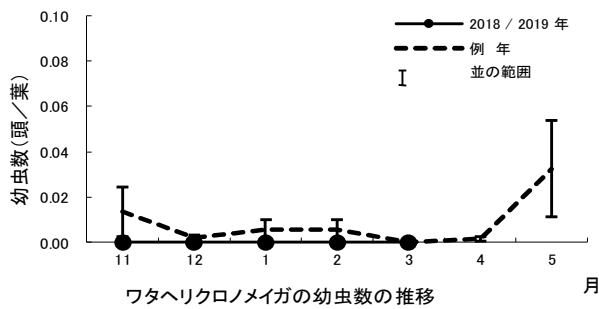
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 成虫・幼虫数（頭/葉）：0（前年0.06、平年0.02、判定「やや少」）

防除のポイント

- ・ 本種はウイルス病を媒介する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。

作物	ゴーヤー（施設）	地域	八重山群島
病害虫名	ワタヘリクロノメイガ		
3月の発生量（現況）		(発生なし)並	
4月の増減傾向		→	
増減傾向の根拠		幼虫数の例年の発生推移から、発生量は3月と同程度と考えられる。	

発生量の根拠（調査結果）



- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 幼虫数（頭/葉）：0（前年0、平年0、判定「並」）

防除のポイント

- ・ 若齢幼虫は表皮を残して食害するが、中齢以降の幼虫は葉を綴り合わせてその中で食害し、葉脈を残して食べ尽くすこともある。また果実表面やつるも食害する。
- ・ 中齢以降の幼虫は巻き葉内で生活し、薬効も低いので、若齢期の防除に努める。